



ジャガー・ルクルトが「レベルソ・トリビュート・エナメル」 - 葛飾北斎『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』を発表

日本で最も有名な 19 世紀の芸術家へのオマージュ

- ケースの裏側に葛飾北斎の木版画『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』をグラン・フー・エナメルで忠実に再現、それを引き立てるギョーシェ彫りにグリーンのグラン・フー・エナメルを施したダイヤル
- ギョーシェ装飾、細密画、グラン・フー・エナメルの技巧で披露される、マニュファクチュールのメティエ・ラール®工房の職人技
- 10 本の限定生産、最初は日本でのみ販売

アジア芸術に捧げるオマージュの最新作として、ジャガー・ルクルトは 19 世紀の日本の巨匠である葛飾北斎の作品に敬意を表し、「レベルソ・トリビュート・エナメル」 - 葛飾北斎『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』を発表します。新しいタイムピースのケースの裏側には、北斎が 1833~1834 年に制作した 8 枚組の木版画『諸国瀧廻り』の中の最も有名な作品『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』が手作業によるエナメル細密画で複製されています。

およそ 2000 年に渡り、アジアとヨーロッパの双方向の文化交流は、東洋と西洋のあらゆる芸術形態に深い影響を与えてきました。新しいレベルソは、ジャガー・ルクルトがその歴史を通して行ってきた東洋と西洋の芸術の伝統を交流させることを受け継ぎます。ケースの裏側に施されたこの木版画芸術への素晴らしいトリビュートを引き立てるダイヤルには、ギョーシェ装飾とグラン・フー・エナメルという西洋の伝統的技法が施されています。

日本の偉大な巨匠を讃える

19 世紀、葛飾北斎は革新的な主題、色、構図を用いて、木版画の古い慣習を大衆的で社会的地位の“低い”芸術から高い芸術様式へと押し上げたほんの一握りの日本の芸術家の一人です。北斎が 70 代の頃に制作した『瀧』シリーズは、多くの美術史家に史上最高の風景画であると考えられています。このシリーズの中で最も有名な『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』には、北斎が魅了された流れ落ちる水の力強さや雄大な地形が表現されており、中段では小人のような男性たちが滝のすぐ近くで一休みしています。



精度と芸術性を備えた作品

オリジナルの 10 分の 1 のサイズよりも小さい、わずか 3 平方センチメートルの面に、北斎の原画の力強さを消すことなくそのディテールを忠実に再現するため、ジャガー・ルクルトの熟練の職人たちは、構図のあらゆるディテールを縮小化して完璧に模倣するだけでなく、エナメル加工とは全く異なる特殊効果である木版画技法による錯覚を作り出す必要がありました。これを実現するために、エナメル職人は、北斎の作品の特徴である鮮やかなブルーとイエローを再現しつつ、紙に刷ったオリジナル作品に見られる微妙なニュアンスと徐々に変化する色の独特なぼかし効果を再現するという特殊な技巧を開発しました。800°Cで焼成を 12~15 回繰り返す作業など、何週間にもわたる 70 時間以上の作業であり、慎重に計画された多くの段階で構成される工程です。

ファセット加工が施された植字インデックスとドーフィン針を配したレベルソ・トリビュートのダイヤルのシンプルさが、その装飾の美しさを最大限に引き立てています。ケース裏面の細密画を引き立てるこのダイヤルは、ギョーシェ彫りのひし形パターンで装飾されており、このパターンのテクスチャーを濃いグリーンで半透明なグラン・フー・エナメルがより一層魅力的にします。

このひし形パターンは 1 世紀前の旋盤を使用して手作業で作られ、卓越した器用さや技術が必要です。ひし形パターンは 60 本の線で構成されており、この線を 1 本彫るためには、慎重に計算された角度でダイヤルのプレートを持ち、旋盤で 3 回加工する必要があります。加工は全部で 600 回行います。旋盤で加工する際には、線をすっきり刻み込み、パターンが完璧に対称となるよう、プレートを同じ角度で正確に保持する必要があります。この工程だけでも、約 4 時間を要する高い集中力が求められる作業です。その後、半透明なエナメルを少なくとも 6 層重ねます。各エナメル層を焼成する必要があります。1 週間以上が必要となります。エナメル加工完了後、最後の難関である無傷でのインデックスの取付け（エナメルの手つかずの表面に小さな穴をあける）と、ルールウェイミニッツトラックの転写を行います。

マニュファクチュールのメティエ・ラール®（希少なクラフトマンシップ）工房で働く職人たちの卓越した芸術性と技巧を証明する、新しい「レベルソ・トリビュート・エナメル」 - 葛飾北斎『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』は、ジャガー・ルクルトの芸術と文化の世界に対するビジョンを体現しています。このモデルは、北斎にオマージュを捧げる「レベルソ・トリビュート・エナメル」タイムピース 3 部作の 3 作目のモデルとなります。他の 2 作も、北斎の『瀧』シリーズからの複製であり、2021 年に発表された『下野黒髪山きりふりの瀧』と、2018 年に発表された彼の最も有名な作品の複製である『神奈川沖浪裏』です。



技術仕様

レベルソ・トリビュート・エナメル - 葛飾北斎『木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧』

ケース：ホワイトゴールド

サイズ：45.5mm x 27.4mm x 9.73mm

キャリバー：手巻 - ジャガー・ルクルト製キャリバー822/2

機能：時、分

パワーリザーブ：42 時間

防水性：3m

ダイヤル：ひし形パターンのギョーシェ彫りに半透明なグラン・フー・エナメル

ケースバック：クロズド - 細密画グラン・フー・エナメル

ストラップ：ブラックアリゲーター

リファレンス：Q39334T3

限定モデル：10 本



レベルソについて

1931年、ジャガー・ルクルトは、20世紀のデザインのクラシックとなるタイムピース、レベルソを発表しました。ポロの激しい試合にも耐えられるように作られており、すっきりとしたアールデコ調のラインと独自の反転式ケースを備えたこの時計は、瞬時に識別することができます。誕生から90年間、レベルソはアイデンティティに妥協することなく自らの存在を常に変化させてきました。50種類以上のキャリバーが搭載され、何も描かれていないメタルの裏面はクリエイティブな表現のためのキャンバスとなり、エナメル、エングレービング、ジュエムストーンなどで装飾が施されました。今年、91周年を迎えたレベルソは、変わることなく、その誕生にインスピレーションを与えた現代の精神を象徴し続けています。

ステラー・オデッセイについて

2022年、ジャガー・ルクルトは、人類が時間を計測する方法のまさに原点となった天文現象にオマージュを捧げます。シンプルな形状のムーンフェイズ表示から、極めて複雑な永久カレンダー、均時差、星図、交点月周期、近点月周期に至るまで、天文学的な機能は、マニュファクチュール創設時から、ジャガー・ルクルトが誇る複雑時計のポートフォリオにおいて重要な役割を担ってきました。太陽、月、恒星を用いた3種類の時間単位をすべて習得したジャガー・ルクルトの時計職人たちは、絶えず革新を続け、天文現象を表示するだけでなく、予測まで行う極めて高度で正確な機構を製作しています。今年、ジャガー・ルクルトは、体験型展示会や一連のテーマ別イベントを開催するステラー・オデッセイを開始します。ビジュアルアーティストやミクソロジスト（パーテンドー）とのインスピレーションに溢れたコラボレーションや、Atelier d'Antoine（アトリエ・ド・アントワヌ）における、天空がテーマの「ディスカバリーワークショップ」といった魅力溢れるプログラムも開催されます。ステラー・オデッセイでは、宇宙の神秘が、腕から覗くマイクロメカニカルの驚くべき技術の世界へといかに昇華されたかご覧いただけます。

jaeger-lecoultre.com